

8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80





古今和歌集

序

凡古今集乃假字序をうり少て。真字序のあむと。あ
緑の本とひ。後成にあれば用ひ。家に奥よま字
序へあると。古今の本とひ。代りちふらうとも。但自筆
の古今集。若緑乃本ハおけり。古今の本をもくすくある
。されどいにきよしむらうるゝよ。古今應乃本。これも
古今字序へもじふらうく。本の奥よあり。る家に用は不乃
か。假字序のあよ。古し集とくまうたうを也。後成で元家
に。るふりげきも本乃も。ううれう不審たる事也。
日多井の家よハ。若緑貞應ひほきももちぬたゞく。徳
家よ今。貞應の本。本もうちある。にうりて。貞應乃本小



て。紫雅。將軍家よりあく。拂謡。もり。一絶。櫻閣。ハ。古
乃や。あやまち。もや。あ縁。乃や。とまち。あて。と。こと。
大和歌。むじ。の。平。仙。よ。人。丸。赤。人。左。右。紀。人。と。みえ。だら。
美。集。櫻。歌。乃。も。め。也。人。室。六。代。延。森。の。け。内。も。
け。の。と。お。一。絶。事。よ。和。歌。乃。道。と。も。て。あそ。び。絶。て。
紀。君。く。じ。道。乃。ま。藝。石。な。い。ぞ。じ。集。を。櫻。室。せ。め。絶。要。を。
序。と。う。と。て。和。歌。の。お。う。や。ぬ。く。れ。体。を。あ。く。ふ。に。じ。序。と。
く。あ。う。え。て。和。平。と。学。づ。べ。て。じ。集。も。り。お。続。く。
代。の。櫻。集。あ。り。じ。集。乃。假。字。ま。字。序。假。字。ハ。費。く。う。き。
ま。ま。ハ。紀。君。と。古。雄。つ。ま。集。紀。浦。望。う。ま。り。ほ。く。ゆ。き。ま。す。ト。
ま。う。歌。也。序。乃。太。代。と。漢。ま。乃。文。章。に。う。む。か。て。假。字。序。小。
慶。り。う。も。て。要。く。わ。く。と。も。り。さ。う。じ。よ。ま。字。序。卷。序。は。

や。う。け。る。要。く。ま。や。う。假。字。序。と。拂。謡。漢。字。ふ。う。つ
一。書。と。よ。い。る。り。假。字。序。よ。拂。謡。漢。字。ふ。う。つ
よ。ア。知。せ。く。る。事。も。あ。り。才。覺。の。あ。ふ。う。さ。く。り。た。と
み。え。く。り。も。う。ふ。だ。ま。字。序。ハ。う。紀。ふ。う。と。半。ノ。奥。よ。あ。り
新。古。今。集。よ。假。字。ま。字。の。二。序。と。集。の。も。ド。め。ふ。う。と
ら。わ。う。い。何。と。治。き。一。く。わ。ま。お。考。ら。れ。う。う。と。や

至まど秋ハ人のあらうとすひのよてとうりの、とば
まことそるかゝる

とばやまど秋乃トカニやう。あまとさぶと。とがとて
旅とさびくじゆ。あまと。大わたく。あらう。だよ
やうぐち。日やとく。倭とく。やまく。旅を
ねハ倭乃子とち遊ざうかよかう。正義ハ倭をたど
たり。又山山山山山山山山山山山山山山山山山山山
て泥沼うづぐにむりて。山の宿住をとめて行ふ
おもて旅よ。跡とり。二人やまふじ仰あふよ
て。山止ととつあほく。技業國。日が國となりふ。げふの
あす。大きこたう業の本あるかく。うれど百詠云。日出技
業。とくら。朗詠詠よ。雲歌。鏡技業日といふ。松

引取詠小。ふし。よき。生。恨。不。ぬ。窮。技。業。と。い。ふ。又。云。秋
穀。必。昇。於。あ。あ。宵。故。呼。詔。日。か。云。技。業。國。也。と。し。き
日。か。玉。と。し。ハ。天。空。震。且。乃。あ。る。れ。ぞ。日。の。玉。乃。玉。と。し。
あり。又。秋。津。渕。い。げ。玉。と。ふ。き。秋。津。ハ。蜻。蜓。の。名。い。ば。穴
神。武。天。空。る。山。よ。の。ぎ。り。て。日。や。ひ。く。も。ち。と。ひ。終。へ。を
蜻。蜓。乃。あ。翅。と。の。ぐ。ろ。と。く。な。う。あ。よ。秋。津。渕。と。云。其
か。自。身。の。玉。名。か。り
と。う。也。秋。の。ま。哥。秋。の。二。ま。ち。う。か。り。西。ま。ハ。秋。
ま。家。は。自。身。も。乃。懷。紙。み。詩。の。ま。と。く。か。う。也
人の。あ。ら。う。と。あ。ひ。と。て。と。ふ。ん。の。た。ひ。と。り。秋。の。生。生
し。く。と。う。ん。の。と。と。の。禁。と。も。り。と。う。ま。う。要。と。い。ア
キ。名。を。か。り
さ。と。み。禁。と。い。行。の。端。と。う。禁。と。い。ア

まとうりとくかくぢり

世界にあらへ。とくともあむにものなれはくよぢり
あくびだらうの三くものよつまでいひ出せうぢり

とく。世界にわう人とよひ。天地人の三が。すハ一うち
清氣ハ。あるびく天とあり。濁氣ハ。ほくじて地とあ
ふ。け天地乃氣をうまで。おこしきう氣を神となれ
ばねとくらへるのちめ也。人道の始ハ神あり。地
祇五代の始ハ太照大神。人室ノトメハ神。或天室
にうづ。されすト、あくべま。 あくまきをまき
すねぞく。能治乃を方とほく。番匠乃家とたつ
ことくま。あくす。情中にうごだ。言ひふあくしれく
あくのあゆう鶴をいひ出せ。とことくまことくま

謹のま。あく。こく。もく。あくねを。あく。詞の事也。能治を
くもとよし。能治乃ま形のうかふ。大よ謹す。あく
とく。 あくよお。キトコア。色もくものよ
つもく。じい。物はなむ。とく。上乃謹をまじひ。れ
とく。もく。尺一たる。

もく。もく。嘗。小よもじ。謹乃。あくと。三けじ。つもく
い。く。お。い。い。き。う。教。と。ぬ。さ。り。く。ろ

とく。假。字。よ。く。か。ま。る。あ。た。と。ど。之。の。勢。あ。う。て。表。系
た。く。う。く。い。も。く。ふ。み。よ。く。を。謹。と。教。て。さ。う。也。

矣。素。ア。ツ。嘗。ア。う。

初。表。ア。鶴。ふ。は。ま。ア。レ。い。お。ソ。で。せ。う。ア。リ。の。鶴。ア
謹。の。う。

住吉の瀧のうらめ。三毛のハラムと人よすとられね
し。あ首の歌を。おもむけて。うとうといつて。歌あれど。すく
もか。さくら。水よどじ壁。乃あうまでも。歌謡と教
えうされど。いくつも。いきうと。とくまがりうと。う
。高字序。み。萬史。喜嘗。て。織。花中。秋蝶。ミ。吟。樹上。
雜。舞。出。筋。名。愛。歌。萬物。皆。互。引。自然。之。程也。と
ある。假字序と。おも。いき。櫻。を。被。宿。と。發。も。う
と。何。れ。ぞ。わ。も。び。と。同。ド。く。い。ね。る。ま。ふ。う。あ。う。ね
せ。う。ハ。夜。乃。も。あ。う。う。う。歌。の。せ。も。と。う。う。あれ。ハ。日。晚。乃
キ。う。や。朗。詠。よ。蝶。鳴。葉。萬。美。漢。宮。枯。り。う。せ。こ。を。萬
葉。乃。聞。う。よ。鳴。す。た。う。れ。ど。せ。う。お。も。く。有。う。に。紅。葉
も。う。と。う。わ。や。う。よ。鳴。う。う。の。歌。と。あ。き。バ。わ。は。人

う。う。歌。と。う。歌。で。あ。う。歌。ド。う。う。う。う。う。う。う。う。う.
う。う.
う。う。う。う。歌。を。も。じ。ハ。歌。び。う。歌。言。歌。も。う。と。う。歌。乃
言。歌。も。う。と。歌。を。じ。歌。と。け。う。歌。の。う。う。う。う。歌。の。ひ。歌
も。歌。一。切。内。ま。歌。ハ。ス。歌。乃。歌。と。う。う。う。う。歌。ハ。う。
ス。歌。内。ひ。歌。と。歌。の。うち。う。歌。と。う。う。う。う。歌。の。う。
う。歌。と。う。歌。を。歌。が。た。よ。お。歌。ハ。う。ス。歌。の。歌。と。う。
う。歌。と。う。歌。乃。歌。の。歌。と。う。う。う。歌。の。う。歌。の。う。
う。う。う。う。歌。乃。歌。の。歌。と。う。う。う。歌。の。う。歌。の。う。
う。う。う。う。歌。乃。歌。の。歌。と。う。う。う。歌。の。う。歌。の。う。

キニアリ。その如乃あらもよろこひるへうて也
トハ。うれしも。ひきも。ひきびく。うれし地と。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。
ね君おまきもあらむ。とあらむ。りひく。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。ひき。
えうれ。ち。毛詩。動。天地。感。鬼神。莫。過。於。詩。と
りうば。車。轡。と。く。わまう。や。これ。ほ。の。極。と。あ。う。に。
詩。詠。詠。の。を。か。く。じ。君。御。と。よ。き。魂。の。キ。天。の。轂。と
轂。と。ひ。地。乃。死。を。祇。と。ひ。人。の。死。を。鬼。と。ひ。され。天
地。人。の。死。を。あ。れ。と。き。み。り。く。と。被。乃。極。を。う。け。く。也。
論語。云。非。其。思。而。發。之。謂。所。と。れ。す。れ。の。く。も。も。も。
そ。人の。死。せ。り。ふ。あれ。我。生。世。の。死。す。あ。く。ぬ。と。あ。く。ハ
諭。じ。あ。う。き。た。り。と。の。事。誠。の。死。終。も。わ。歎。と
あ。も。ふ。と。あ。も。す。二。或。泣。よ。天。智。天。全。の。序。内。す。方。
深。患。つ。と。ひ。く

と。云。逞。屋。鈴。家。と。海。一。先。傳。契。併。勢。あ。ふ。と。解。く
石。耕。と。ほ。じ。て。あ。ふ。じ。り。て

ち。も。あ。と。我。大。君。乃。玉。た。れ。そ。づ。く。う。尼。の。柄。た。く。ノ。サ。ー
と。も。あ。う。放。ほ。め。く。ち。く。と。と。く。思。耕。さ。り。ー。ク。ボ。チ
方。を。う。ぶ。と。り。よ。又。わ。泉。來。放。男。小。こ。は。見。う。れ。う。と。お
深。患。つ。と。ひ。く

う。つ。う。そ。と。う。伝。因。の。事。と。み。よ。か。う。り。そ。と。う。萬。の。う。風
と。も。あ。う。び。テ。新。右。今。難。か。よ。い。ま。う。

後。拾。遺。集。詞。す。よ。男。に。と。わ。と。き。行。け。し。と。う。の。ふ。ま
と。て。え。く。ー。河。下。管。の。底。ゆ。り。う。と。お
知。おり。と。次。の。音。を。う。か。り。あ。く。れ。お。う。き。と。お。れ
と。う。う。に。大。四。卦。沖。ゆ。ー。よ

おくよまたきて落葉れりもの葉からむらぬるありひそ。と
男のあつてく。和泉をもよが耳のまきあえうとさんを
後保昌支まのちぎりこへかり ちゑ

かとく一女の中をゑらへあとハ。げ集よ。ぬあけぞたまに
すくまもてふれ故とよゑく。女若ふくろまで琴
とうきこたまへたらまわる。男あまゆとりして河内へ
もりばたらふくり。又佐ねよ

さくらはまへたまひやまき人なあうそののじ
とくらぶ。ありひくままで。あくねぐりて。もめりそそ
ねむけとて。さけにそのぬかあくねそな
くましハ然めりとへ。かくす。おゆよ

人まみ我かむらの匂ひハシケくまとすをねりじ

とあきらむじあふ。まくまくとめかとて。おう
ゆうてきりとて。其かせすを

山然あめほらひくまく。まくまくとめかとて。おう
とふ。天地國闇ハとめかとて。故をあくじよ

あまのうきくのとめかく。神と神とて。おうと
とくうとめか

とふ。天の御鵠ハ。天の御鵠ハ。はああをつちのひくを
も。一もりくろとめかとて。おうとめかとて。故
はとおまきとて。國闇ハ。國常立毛化神一終トモリ
おの身也。伊弉諾。伊弉母の。あまくらむれ。終トモリ
ほの事。かやの。身と文意あるくいをれば。大す
アラムカム。はは。も。參徳のかよひ。かよひ

乃て爲すりとく。宗並家より來るとのう説也
古賢もかとひて、うきびのやあまのうみけの
ちふく。至て男女の振舞をたゞ経つてあらず
伊弉諾伊弉冉舞る浮舟のよよたまごと、霞がとく
お絶。滌あとうとそそくらむ。其のあざり密て留と
す。あれを殿政庵爲とく。而れびゆあるとたれん
とす。附湖乃滌。自然に凝結して、とすとたる。有
自凝結とく。またあるとくまは、若とうて、
あ祚はまふおりあく。まへ殿と生く。其は住ま
西林ちまき。まへ殿柱とせうて。如祚はまち
めく。在奉遇少男。とおなまよ教也。因祚はまち
じりく。衣表遇り女。この事まつてあり。あれも教也

す。まど。陰陽和合のもとめの御祠をねど。秋れ始
きりとはづ。齋籠のありましと見て。まのまく
をいとむひき。みのまくをいふ。欲若とく。あ
祚はまとうきんと。女祚と祚とたち経りあひと
え森すやうと。みのまくをいとく。じあ祚。あもう
れの御祠と。あそつらひきも。もりくらむ。内
びくまく。日が國とほくうて。嫁終の時。伊弉冉
笄冊とふく。我よみくをす。き門の歎
う。まく。おまつ。娶もす。おまつ。お結ひ。まよ小糸。お糸
まわ結ても。力とひ。うと。お祚嫁。まよ。お糸の
手とひ。おもた。一まつ。嫁。嫁ハ。激流の糸を作り

てばほどのよかと、あまくちづれのすけひすとたり
日車にみありとひづり。伊弉諾ミタマとかまそそよひとまく
とくとく玉乃たむらうべき姿をあつた。伊弉舞ミタマ
とまく。あめのとおもしとよりあり。あめみとのまくぞい
玉す。一女三國ミタマをまつあ終ふと云えたり
玉あれども世はほんがキハひまくこのあめふにて
下照姫ミタマよけまわり

右注よりとくじあふ。あめまみのやからせきの
神乃まも。とくじあうけりて。うやくとひり。あひきとま
をくく。あめのまくのねむまゆうさ。神のやうも
あめの事ミタマとまく

とくじあれも下照姫ミタマの注也

とくのあめとふ。とくとく

とくとくとくは枕詞ミタマとほひまくみを。あめのま
薔薇ミツバチのまくとくとくとくは枕詞ミタマと。森櫻ミツバチが和琴式ミタマよ。宵と
ひまくことく。右體惣ミタマ。まとじまくことくよもりて
と乃せよ。天氣ミタマの物よ。まくことくと。枕詞ミタマとまく
体も。むく。ハ風もく。といづだまくの哉。枕詞ミタマとまくと
詠ふたとく。其風とひの風て。後よ詩ミタマとくとく
あめと。天也。神代の國ミタマ。あ。とく初ふとくとくと
あ。わハ度ミタマの字乃ひ。むと。あまとくとく。和也。義物ミタマの始
も天也。度ミタマへとをうけあつまのまく。下照姫ミタマ
あめりみこのやありとひ。日を紀神代卷ミタマ。天照大
神。御孫ミタマの神也。ほよく。まよく。結りんとせよ。お
義物ミタマ。おのを。御孫ミタマ。天照大神のうやく。五月の

蝶乃さゝぐぢとくたり。けきめ神事とば。うみれをの附
みの大女神坐の太社と御下りしと。日神。け作を
をもとあて。落よ神孫と降り給ひんとて。天雅奏と云
神よ天羽呪矣。天麻呪矣と終く。下されよ。大女神
神乃もじめ。下照姫と嫁。二事まで是れ乃事
ありに。日神あやみく。安名稚とく。アセ
アセ稚の御。天雅奏の門乃あちる。種のあよりま
さくとあま。天雅奏討弱と。うれ夫魚らよ。天ア
トモ。日神の御あよづりね。よねもてろ。日神あや
ミ。彼女あまのとこ夫なり。ほきつむと。神きつと
一。天雅奏終よ。天雅奏わくわくしのよまうそ

卷之三事と形神はうふ

天雅奏の御をいだせ。天羽呪矣も投げほ
とすあり。あめうひころ父母の神。遊て。うのと天より
さりあまて。天麻呪。下照姫乃兄。味招も產祖と。天
雅奏の父母と游りんと。天よより後。天形密教義
難うく。八の恩ハ乃父。うほりて。照姫や。うけつと。是
を妹乃もさう娘。うによみく。ほどくか神よ
めなまふうふ。

あもあやととれがみのううめはみのまゆるひ
まゆるひとをあくよみすあらむ紀たひらの
ととあう。あとどうてこあめふ。そへ下照姫ふく。曾
ううあもあやと。ひえたらやと。娘の見の詠

吉根乃神のうちもととあるがのあうふ。強招とくあ
事よ空をあきて。あよほくねまとううのぐー。がちをす
若たうづらく。がくとくあつうす。神の、もう秋の酒
くれどんぬぐれ事とあら。大雅とと。とくもあ
あやまちよやせうとの神とく。女の見音をあひてせう
く。えじとあとい。うさうづら。迂の字をだを
たとく。日を紀よ。夷曲とく。じまがりとく。中國
かく酒よくかくにとりて。じまがりとくや。じま
ちがいよじの酒よ。夷曲とえじと飲とく。ほしゆをある
とハががえに。併物よ。むぢぬくづとあう。ば。は集よ
かまのくづれとわをあく。毋く。モのくとくの巻
あり。日が紀の古きよ。うくちうくたるや

このかくのねじまく。よ。秋乃やうふをあくね
車ともちりとハ。下照姫のあづきもと。のうじも。
酒をたうづらぬ。手抜りよ。但は。經。旋頭。等。
の根湯れ。人の世とありても。がふ。秋のをくひ。至。陸
み。大おの序。思ふ。餘入。す。結。脚。秋。す。がふ。併。拾。そ
集。う。そえら

あく。ひのつちあて。いすみとれみとく。うりそ。おこうく
ちも。やあ。神代。よ。ハ。す。の。も。一。も。ま。く。あ。と。す。ら。や。ふ
じ。く。あ。と。の。あ。く。う。こ。う。か。う。く
と。ふ。あ。く。ひ。の。も。お。と。の。そ。の。林。酒。づ。ち。も。食。と
う。し。酒。が。り。出。あ。と。を。あ。く。ひ。と。り。ふ。れ。と。ゆ。り。も。う
て。ふ。踏。舗。と。く。や。ま。く。て。が。く。と。う。せ。る。通。活。の。一。字。と。

ゆくともろそかをもじ すまれものとどり
うむらうむらむじる。じるの神をもみもぐわ修ふとよ
はみと。日神の御牛ちり。はるうさがきてや
れきりふくら。ふよのわりて。日神よまゆくの御神
みて。云哉吾勝神と着く。あまされ神と化生
絆く。天よよと。やうり結ひよ。た惡行やまざれば神
結く。天磐戸にともに縫き。御神罷よまきをま
ねかせて。重くしづくまく。らきぞ出雲のま難河よも
バシの太蛇。とくべく。國津神。むとあ。繪田姫とおと
落書とのふれよ。あつく。すと結ふ。うれ西よハ多の
雪乃あ門をみて。神とくと結ふ。あれとじみのとれる
「しぞ。此一字神をよけト免給よと云。

さくやあり神代よハ秋乃き。もしもくくす。とちう
すく。かのこころよ紀。ぐくく。とく。まく。すく
よハ神世七代時質人淳情翁。翁分和琴。秦作。とく
ふ。まくよ。而乃。あ神のあきづかの御宿とまんと
く。く。御宿。あく。く。せんたり。下照姫。乃すハ。す
乃あく。うき。さく。く。く。とく。すく。とく。とく。
とく。とく。の。瑞女。すれど。天とその神あれど。後のすす
すとあれど。すく。序。小。神代七代とく。れば。うづき。す
とく。とく。せ代乃。御。がうみ。すとく。とく。め。とく。
人のせとく。とく。のとく。とく。とく。とく。とく。とく。

とく。とく。の。あ。とく。あ。とく。の。とく。とく。とく。とく。

乃ニヤとあつ。あたる處人のせとありて。まきのとれま
よりぞとす。詞乃はじた。とくのとれみと。人のせと
りすよにかねども。卅一字をかどる。人のせよ歌とも
りすよ。まきのとれみ。うりぞの。うみよしとやまくまくほ
ごうハザ。十七を左後ようとく。百とぞとどく。むぢら。
じともみをの。ハ雲乃門奇。うつぞ。スセミの。もろ
との。わりそよ。かくの。うみ。あく。音調。く。まく。う根
源ちく。う。う。風とくと。歌トやまと。エ。歌の
事。うち。ま。字席に。と。の。歌の。作り。と。う。ば。友
歌よ。歌との。ま。あり。公。仕。に。ア。ト。は。短。す。と。歌。う。よ
。の。短。歌。を。と。あ。ち。世。一。ま。さ。り。と。う。び。年。不。審
ば。集。よ。歌。を。短。奇。と。う。ま。か。よ。う。り。て。長。歌。と。短

奇。ハ。暮。別。す。初。乃。ス。セ。ミ。の。後。ち。み。さ。と。づ。く。ほ。よ。く
あ。く。寂。絶。ゆ。ギ。く。と。か。か。れ。を。始。終。と。ア。れ。が。幕
通。乃。三。一。字。の。キ。な。り。ム。み。て。き。て。ア。ミ。バ。フ。と。き。す。
モ。ウ。み。セ。ミ。セ。と。まれ。く。ふ。あ。つ。く。ハ。短。歌。と。い。く。
を。う。ア。ズ。セ。歌。と。う。と。お。ま。く。う。て。ハ。る。奇。と。う。て。要。あ。れ。ニ
十。一。字。乃。歌。を。一。首。と。う。と。う。あ。れ。き。セ。歌。の。い。と
は。歌。を。う。と。か。う。ひ。て。と。う。あ。れ。き。セ。歌。の。い。と。う
き。と。う。レ。れ。う。と。う。歌。を。長。奇。よ。う。と。う。れ。あ。う。歌
よ。あ。う。う。と。う。奇。歌。を。序。ふ。今。の。ス。奇。れ。作。作り。と。う
ず。れ。と。歌。一。合。と。う。歌。乃。一。首。の。中。う。と。う。奇。歌
の。も。や。う。う。と。う。歌。ア。よ。や。う。う。う。う。う。歌。ア。れ
と。う。

のものと云ひて歌乃ちうばつて別としてたる。方
歌と云ふ者うちうたきどもうよと云ひ者と云ふ。うそば
秘流口歌などある。主席は。實度人代に風太興
長哥短歌。旋頭浪やく類。雜詩也。源流鄭繁
公位に乃注。劉晏長歌也。俗以之名。稱短歌。わやまう
そり短歌を三十一字也。又称五字。旋頭ハ。モ併。殊善
あれを可也。瀧井ハ。旋頭。すの。異名。うりとも
頭歌。浪成が式。在機云。万葉集。い。せら乃すと
セラと名有り。古來。也歌多也。既あり。ミ
一。先の義ナリ。而後も歌と短歌といふともいはざして。モ
下よくあ義とおほべ。ト。や
唐詩の。ハ。あまたうぢりん歌のこと。もうち。女ト

すか。結りん。と。の。の。く。と。あ。は。く。と。ー。と。ふ。と。と
うかと。あ。よ。や。う。の。を。の。あ。と。か。と。と。と。と。と。と。
金と。あ。い。つ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。あれ。と。と。と。と。と。の。と。の。と。の。と。の。と。
天照大神。乃。あ。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
神。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
それと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
源氏。愛淳。格。卷。う。と。あ。と。が。う。も。か。ー。と。と。と。と。と。
あ。の。と。い。も。う。と。と。か。う。う。と。と。
と。と。稻田。歌。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

とへ。生鰐の大蛇をもぐって。それ大蛇を焼魚の煙の
きりを。ひま乃とくよ。生鰐と。やうろの煙のたち
あり。ふらりと。あそぶ。大蛇をもぐる。身
を湯津の石枕よらす。みとれ頭よし。づ
ぐり。ひどく。かよひ。あれを。おのの根よもつて。
寶櫻るり。大蛇とも。あよ歎を。へく。酒を。め
辟く。あせる。八の石枕も。八の終と。うりて。大蛇を食
みと。下括歎。尾を。陰ふうり終す。尾。もう
雪く。内尾を。やがりと。見て。げす。歎と。ま。羅歎と。よ
は。歎。じ。歎と。帶。も。付。う。お尾よ。ほゆ。雪。氣。ある。氣よ
天叢雲歎。と。よ。ど。と。り。と。後。日。神。よ。中。と。う。と。り。と。
ハ歎と。ま。り。き。よ。日。神。られ。む。じ。失。歎。失。う。と。ま。

と後人室十二代。京行の附。东夷日神。小そむく。レ
綱と。京行向。日神。去。往。りて。东夷と。往。せ。し。室
子。後河。玉。淳。源。よ。い。う。え。び。と。原。乃。弟。小。火。と。お。そ
も。お。ぐ。わ。ま。腰。乃。綱。を。わ。ま。そ。一。褲。を。ま。べ。穿。一
里。の。お。そ。え。う。ち。た。お。く。う。れ。火。自。滅。と。あれ。お。も。り。名。と
改。く。サ。ま。羅。歎。と。よ。う。め。ち。る。化。て。白。多。と。う。そ
れ。う。れ。火。尾。州。樂。國。乃。神。廟。よ。か。し。う。と。也。ま。羅。歎。
日。午。未。る。乃。時。の。お。そ。う。経。日。午。紀。よ。お。そ。れ。と。の。大。蛇。
尾。う。ら。え。う。歎。を。ま。羅。歎。と。よ。う。や。う。の。ち。が。い。わ。ね。
す。ま。れ。と。み。と。お。ま。ま。よ。配。を。う。れ。財。よ。も。浦。と。う
演。て。た。う。う。う。心。あり。あれ。ち。大。地。よ。ほ。ね。う。じ。あれ。ば。日
神。の。西。よ。あ。う。う。ど。我。さ。ま。う。と。せ。ん。と。そ。と。ま。か。く。う。う。う。う。う。

ちでらきて。じゆとくゆ。それとも磨タマぬとよみと
あり。下ふ娘とまづりて行す。三字よ二十一字れ
あと。下シテる。よとせよ。はまひやへのすと

日作乃詩

主柳の奈うちもと。室乃ねもろかき。柳乃もみを
け。活奇。雪をかきあつて。行つて。行す。三字よ
うと。下シテる。よとせよ。はまひやへのすと
家アフ。も。不。ふ。く。ハセ。ハセ。百。主。た。じ。云。教。乃
ざく。よ。あ。う。ど。あ。く。や。め。る。行。よ。用。や。ほ。ま。作
て。塙。と。そ。う。也。が。主。活。よ。あ。う。ど。ざ。れ。も。ハ。ま。の。雪。れ。ご
と。は。う。ち。あ。ち。娘。と。ば。あ。よ。も。み。く。よ
り。そ。う。行。を。さ。て。あ。ば。う。や。も。雪。と。あ。く。し。じ。露。と。る

一ふあうて。下シテる。おやく。ふうり。ふうりに。うる
とい。かく。て。お。な。お。の。ま。の。と。れ。三。十。一。字。の。被。を。す。れ
う。え。す。ひ。て。う。と。よ。 花。ば。め。ぐ。き。と。う。や。こ。ど
も。も。と。や。こ。と。る。の。連。も。と。う。や。こ。ハ。掌。れ。ち。れ。よ。ち。く
と。う。わ。か。ー。く。く。み。く。ち。欲。を。よ。 わ。か。く。ん。と。あ
も。れ。い。と。ハ。霞。乃。風。よ。く。れ。や。と。れ。事。と。り。 窓。と
く。手。ぬ。と。く。ほ。け。ぬ。と。く。あ。く。ま。ゆ。る。と。り。霞。窓。と
あ。も。ひ。い。く。ふ。い。ほ。れ。を。す。り。ろ。う。り。と。り。や。う。れ。絶
き。り。朗。詠。よ。但。憐。太。度。万。株。梅。又。云。宵。曉。共。憐。深
夜。月。又。遊。仙。窟。よ。可。憐。生。と。ま。そ。て。が。も。う。と。もし
か。あ。く。小。ふ。憐。の。よ。お。り。ろ。ま。と。り。向。ひ。う。り。看。と。う
キ。よ。愁。詠。乃。う。す。ひ。よ。あ。く。ど。潘。あ。ぐ。や。の。り。つ。ま。そ

かうらもとつよゆき。じまうら。露霧とおりろくを
ぐめ。おうりわくとあそびとみのそり。あそわひと。こととも
ぱくねぬわせしとせがちくひたら。人のせとなら
て。おもとめくうめく。あおとあまれひく。ふ
くらく。あくろ約わく。さくらくよたりて。せ秋短す。
旋頭澗をま乃伴^{スル}。さぬくおれく。す乃あわくといふ
きくもとあうありとおもあれすが被あく宿の稀を
すまのまよて。稀乃むとくわざじむくふやと
百子もとまくふぞれあうあう。めいもるに程よくわざ
ねふ。我とよれぬまくまくどぶのあとあそれとくよ
病とくわざの物と思ひくん我身もおふくろむぞう
あけゆく。け集表傷^{タハタ}のうまされど。あれも良病と
おもふ

まくして。まくかと圓くまく。せ秋はくま乃せ一字の哥
をり絶^ハはしち秋と号^む。みさままとほくひた
はくは起。旋頭澗をまくにあくらまく。能^ハ可^ハ
あくじむのたくじむり。せかく。まくよみ
らせく教^ハしむし。圓く教^ハく。うちくへくくのを
よくのをくある。せ^ハ連^ハニ首乃教^ハ。せ^ハ十^ハと教^ハのものよにとくとめく。わらは
おも乃^ハくぞくよ。おまわく教^ハとをくとく。うの間
影^ハまく。おとを西^ハて。御^ハそくとくとく。まくとい
ふくは集^ハよハ。おととよあく。おととく
もくまくあく。おとよ二年。おとねまと經^ハてよもく
おとじくとあく

あはうがひゆづきまみだらわどれをせとう
村もふるのうとわへたかくも花乃咲よさん
のまむとてはゆうの庭よみに弱てしのいむく
かねまへすかわすすまーあきだかしうねの旅やそ恩
わぬの花かにあくまきうとせはるまれも空かよき
くらげとくらげまはくがの侍とあらうと
まきとくわづくあらのくもめりてくま
くもめりてくまくもめりてくまくもめりてくま
あひくもておひのくもめりてくまくもめりてくま
まくもくわづくあらのくもめりてくま

五曲

とへ。どくはきらむとへ。白居易云。千里始下山。走
散雲^{チヨリ}じゆの霞うつる。うれを愁のこゑへかもりやな

きううへよきだわよりでくわの一歩うちも
まうてよき自身とくわうがよ西くゆきつれり。まいた山を
ありとのお泥のほくひて。まいた山とくわうも。まいた
あひくもておひのがくくがくよ。おも愁^{ツノ}がくへり。よ
くとあがむをひとのあくをり。

とも。泥深とも。一急禪^{シキヅ}圓公説。二家家よ。かくのち
ぞくわう。答泉家よ。ぢりもくと。じのくもと。じと。もし
キハおりひしあひ。かわうぶよ。おもおみく。じと。じと
豆不審をひだ。ぢりひくらどく。まきと別よ。ぢりひくと
ひくふあくをひあく。苦泥もくねじ。ぢりひくらへ。まき
は月を井の家よ。らうつむと。しのぎを。月を紀す
ちとひくと。ひし。苦泥を教。沙を教とひすばくいう

あらかじめひじらひじらうかと。あらねど難波の御瀬
まかわくともひじら。さうや。家臣家へもひじらと
一ときあり。但日が紀の泥乃瀬よ千疋尾と曰だる
御の瀬よ。須尾尾とく。あれもひじらとつとて
あらかじめひじら。泥のこまづくもひじらとつとて
あらかじめひじら。泥のこまづくもひじらとつとて
えくははは。あれをもひじらとつとて。ひじらとつとて
づる能かう。えまかせ。又は華御瀬云。泥のまとひじら
ことがとひじらとつとて。じあらぬもひじらとつとて。又は華御瀬
が奈川懸石車とす。うきそ。まきよ瀬のまく
神のとみとみとみとみとみとみとみとみとみと
まくや。まくや。まくや。まくや。まくや。まくや。

とゑたうへある。泥のまとひじらとつとて。まくや。まくや
終へり。まくや。まくや。まくや。まくや。まくや。まくや。まくや

あらかじ

あらかじめおとく。あらかじめおとく。あらかじめおとく

難波津のあきみどりのあらんも。めぢら

古語

あらかじめおとく。門のあきみどりのあらんも。めぢら
あらかじめおとく。門のあきみどりのあらんも。めぢら
あらかじめおとく。門のあきみどりのあらんも。めぢら
あらかじめおとく。門のあきみどりのあらんも。めぢら
あらかじめおとく。門のあきみどりのあらんも。めぢら

あらかじめおとく。難波津の被の瀬うち。大鷦鷯御門や。
鷦鷯天皇の御瀬うち。に瀬あります。に瀬あります。に瀬あります。
あらかじめおとく。寂瀬の瀬ます。に瀬あります。に瀬あります。に瀬

う活え経りゆくよ。う活えと号とも今離れて
てまうけ叶工作なりけり。齋作もすと、能作乃
御よ。佛作をう活えゆづらす。仁風ハ此兄をひだ。天
位とつむおへとす。に傳を父の命たれども。天
誦終。大法ハ羅波津よりはだも。う活えおもへゆ
て。だいみ位や。う活えと。う活えを。う活えを。天
う活え活え。う活え。に傳ふく教え経ばあ。先代片
ひため。もくもく。傳ふく教えを。う。あふ王仁公
を。師位と。の。ま。おと。本。小。あ。ご。と。被ふく
て。羅波津より。羅。う。あ。お。君。も。今。く。も。と。被ふく
傳。傳。う。と。二十一。字。乃。う。と。と。の。せ。あ。う。だ。と
ばく。か。お。ほ。う。活。め。だ。と。教。お。活。う。傳。傳。

れど。う活え。う活え。う活え。う活え。
と。孫娘式。まだ極乃花と。う活え。あ。本。大。お。の。を
べ。と。復。せ。り。び。教。と。う。接。と。て。う。活。え。と。お。の。表。と。う
と。う。活。え。う。羅。う。う。羅。波。津。と。教。乃。う。傳。う。傳。を
ま。う。う。う。傳。傳。う。う。う。う。う。教。を。あ。と。う。傳
津。う
う。う
う。う
う。う
う。う
と。う
と。う

ぞと向うて。じよよハ。買人を賣とを。と答へられど
君もとを。手綱よかく。主に羅故の。みよそひま
とおせぬ。じよよの。易終よ。あらに。我あゆ。二十一
字。乃歎を。よもとを。まく。あり。に。酒を。津の。えれ。ま
萬の。びり。正経を。もと。民の。うり。あゆ。と。モト。モト。アリ
百姓。乃。篠役。ニ。もと。と。め。終。を。後。ね。アの。櫻。あ。う。と
「終。」と。終。

多。也。の。が。り。て。多。也。煙。五。民。の。よ。ど。く。ま。し。か。り
と。御。う。よ。じ。方。朝。古。今。が。美。妙。よ。い。わ。り。御。物。と。く。う。多。蒙。
ま。歌。や。ざ。れ。ど。と。く。う。つ。め。た。と。く。び。人。民。ま。れ。ぬ。や。ぐ
多。と。感。く。え。唱。と。ほ。く。り。ま。る。が。く。大。慈。然。乃。歸。ん。れ
よ。活。世。八。十。七。ま。さ。う。と。と。く。聖。と。聖。と。一。曲。一。き。

お。き。う。山。乃。う。繁。き。う。の。め。乃。キ。う。れ。ト。り。ト。み。く
か。か。の。が。う。う。と。み。ち。か。く。く。ほ。う。り。だ。り。う。山。ふ。國
内。で。こ。か。か。絶。そ。う。ち。り。と。く。や。う。け。る。と。と。く。り。ま。れ
こ。と。く。れ。ゆ。う。り。く。れ。も。う。ひ。め。き。り。ま。る。女。の。う。く。ま。ど。り
て。ひ。う。れ。ゆ。あ。ふ。そ。か。や。く。い。乃。の。と。け。よ。あ。れ

と。か。う。れ。そ。あ。ひ。う。山。乃。う。れ。注。う。り。お。猿。山。ハ。奥。別。安
積。那。よ。あ。う。山。乃。う。り。葛。城。ま。と。こ。ち。か。か。へ。ほ。う。ハ。さ
ふ。し。一。ハ。國。同。を。歸。て。善。政。を。む。く。ば。ま。と。の。格
式。を。と。く。れ。キ。う。れ。ど。も。稅。宣。使。の。勅。使。を。つ。く。て。す
と。檢。か。せ。く。れ。く。う。も。稅。宣。使。の。勅。使。を。檢。使。と。察。使。民。苦。使。と
も。り。弘。仁。復。歲。の。開。田。ま。で。は。す。あ。り。う。れ。く。ち。ち。復
て。か。う。美。氣。よ。び。あ。う。山。乃。う。と。つ。れ。く。り。も。う。る。と

とりと。今の後よりの事ありて。かく三の内にまみ
井毛在大臣に橘諸兄乃ちふたり。橘兄弟。敏達天皇
又世の孫なり。主兵馬少佐。天皇ハ多よ叙任三位。同
十ニ位。位在大臣。十一年正月從二位。十二年正月
從一位。即位在大臣。感寔元年四月正一位。あれまでも
於玉殿なり。勝寔ニテ正月始て橘と絆りて姓と名を
即位す

舊ハ主君の御名を主君と人あはざるだらうともされ
どあるをさへかうとも也。實はく御名のをさへい。實も
花も素もとの御名へなり。比々す万葉よひれり。源氏の橘
曰姓乃中に橘氏弟一より。並無ふを。じ在大臣。撰じとあり。
葛城王室の司をうそきりとて。づふく名代をまわ

おれぞ。宗女をうそきりて
あきうゆびとて。又ゆきやまの井乃ゆきへんとなりて。物
じうゆふあくろ。玉うゆ。のゆくと人よけえぬりの
うじうゆ井に。すひて。りきめきうふ。じうゆんとけりよ
うれぞ。をほ乃とくふくう教をう。宗女ハ今。の官女よ
ううあれ。上吉ち院下のゆくふをあくう。宗女ハ男官
きり。女官よくす。もとあくう山乃。しの御宗
よの見ゆ。うゆ女となり。きあう領城のゆばりと
みえたり。かくきとりて。へ。監をとうとひうり
上吉う。たまと用ひます。伊物中古源氏。校表
どうも。うりまつりととかくり。きてのじだる
ひあく教へう。乃ちものやうとそきわす人の

けめうもとすまう

卷之三

三三

とハ羅波津あさうしのじあみかハ。うちもれ
やうもく。國ある故うれぞ。むかひいうしうきて
とく。じーの能たるをかかへり。わくうかへ。じーハ
きくい始よろはとあく。がす。ばあ。故うと
てうるひうるや。がくか事ふ源氏中將の内。よし
ミキドアリんと。少すよかく。ナクタ。おはがと。がく
きく。乃。結して。よとほく。きく。う。

初學乃あらがのきはみつ。うち孫ひの神を寫もる
祖母の尼。じはくと。やく。いき。羅波津とだよもす
まくはと。ひく。波津源氏は因とゆひして
うるひあく人と。思ふよたど。井のつきをみる

とじきふははと。と。ひく。御は付て。く。経。と。れ
ヒハ羅波津ひ教と。學ひ。きと。と。う。たり。いろはと
軍すまと。と。の。あく。と。羅の。え。まと。ほく。た
ぐ。と。代。き。い。う。と。う。ふ。を。常の。教。あ。り。と。の。お
り。じ。人。に。た。う。す。と。う。と。た。け。よ。父。を。う。そ。と。う。母。と.
う。そ。と。う。父。母。と。う。き。う。と。教。よ。う。り
か。う。お。か。う。お。か。う。と。う。と。う。と。と。代。う。き。う。と。う。と。
じ。う。と。か。う。う。お。か。う。と。う。と。と。う。と。と。う。と。う。と。
と。う。と。か。う。う。お。か。う。と。う。と。う。と。と。う。と。う。と。
お。か。う。と。か。う。う。お。か。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。
う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。
う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

あまく山乃ふく秋の法わづらうとす。乃丈母のやうよ
てぞとよ

うもく秋のえぬじつまうかのうふもくをうそてあづき
そひまつらひとくよハモハスムアマタのみとどく
キテモトロウシ

うかうよくやあた花を鶴り今ふまうとくやこも
あくたうへ

とふ柳とくよふ葉とくよだら向也

秋のえぬじ

川ありよ。風流比興雅頌の六ぢり

うかうすよ

わくぞあぐきとく。ほもらまあぐきとく

むくと。六種六義のき也

ひくよろくちがく

うかうよくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うかうよくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

鶴すら。風のえとくよく。じ風を覗はゆ。そくた
ふとく。とくねとくふとく。うへ。とく。とくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

左信云。あらも新羅國大井門は附章ありて
行章もあらびこ而ちりと宣へ。キのイーと奏え
とて。じうちはより直よ行章のアトとがるれ。行繁
アトもあらむて。あらも行章ありとめ。うれ
在見儀、法もあらむせ。じとうよまたがどく。古奏ハ
あそれあら國をうり。ばくくへうつる行すあり。ど。要く
あたもの。うと。うつる行すあり。ど。要く
景性乃御す。風のえきみえどもがりすと。とくわ
じらあらむと。神なり。うれむたとくわ。自然のす
ふ。うきつあらびくへきとど。のきうるふ。うつうだう。大
まこと乃帝と。うつる行すあり。うつうだう。大
きく。うかはよえあらひせ。稀乃。まよぢりて。き

タトとあらう。スヌム。風のまそと。とくわ。人ありそ
風の体そりのうわうと。とくわ。樹と効。とく風の体
とく。ゆうが。とく。樹と風の序。とく。とく。セ
モ。わく。う。とく。
美ね。お。上。左。ハ。又。ま。内。效。と。とく。とく。とく。とく。
ら。と。ば。の。歌。の。核。う。周。の。代。と。り。詩。内。を。盛。よ。さ。り
て。集。ほ。三。子。館。篇。と。れ。子。櫻。毛。詩。う。わ。う。じ。毛。詩。内。序。と。れ。子。内。歌。子。の。子。莫。う。う
ア。塔。く。ら。ま。と。の。巣。う。り。六。義。魚。内。あ。か。ハ。詩。と。う
車。を。か。り。て。よ。ハ。考。と。り。う。う。達。と。う。う。れ。と。座。よ。ハ。あ。う。う
あ。う。と。ア。セ。と。う。あ。う。む。一。の。賢。王。を。尚。学。物。士。と。重
て。は。う。う。と。慶。よ。と。う。う。と。も。教。し。か。く。の。と。と。主。に。が

さくやあめのとくとくみとく。門門とろんまくり「もり事
歌く。六義あくわれむり。あまめは櫛せくわ。時。絶句
作て。もくゆよむく歌とく。あつむくれくらう。万葉
き。もくゆ秋をも雜る。どがとよけと。一叶の秋と一
死。もくゆのうれす。毛詩の辞よお似むり。ち葉極
てち葉をえぞとす。國雅頌のニ。ち葉篇。賦比興の三
を。辞よし。もうふすひまく私をも雜を篇よあく
六義は。辞ようむり。六義の名目もくらと。歌よへりて
たとく。うすいと。義理ひとく。す。詠歌の一回の後より。
こまくまくちまく人のうじに。や。古往より。むくまくこれ
じまくは。えさんあくよアドミ事一よさんとくら

詩正義云賦比興云別孔子合於風雅頌中孔子以

前赤合之時賦比興別爲篇卷碧漢云一日風非國
風之風五日雅六日頌非大雅小雅之雅商頌周
頌之頌也詩周云風風也教也凡風化之所繫皆
風也賦者鋪陳其事比者引物連類興者因事感
發雅者陳其正理頌者義而祝之云云は文ひそく
古今よそくの六義よくわふく。それを毛詩す
曰雅頌兮歌と見え賦比興を辞とみたる。だく一聲を
ひき。妻へつそぞうば。正義のよくはく。詠歌ハひく。只
のぶす也。古今集よたがくぬかひとだ也。只かとづくを
大雅小雅とります。天トのよびうきて。奏すとくと太
雅とくし。洛陽うゑ事とくとて。奏すとくと。小雅
とくと。商頌周頌音頌どて。げ三物よ。帝者のせと七代

乃廟をあひて。主宮の中よ進く。おれとあうはれま
丈と響とう。響漢よ大雅小雅商頌周頌には雅頌下
あふとど

あらはうへすへ

筆者不思ひはどのあらはるはりかよつてのべまくもそ
とづくまく

とい。考ニ賊とうもくすとアモ待え。賊在玄界にて。と
づく。船よあくまくして。あくろと一橋よとくまく。と
づく。船よあくまく。秋乃ん。花をおりうつとづく。思て
車弓とよしもて。車弓のうひうだよりうひうだ。ば
す。拾遺集物のうよ。ほくまとくくもくもく。大体是
前ノうだ。つてうだ。前方もくもく頬字もくもく

あらはれさへ。懸懸。垂楊。安忍。とくとく。又税をひ
つゝく。もむく。ひきく。花よあり。じつとく。とくとく。日
とくとく。わざとく。書よあく。ひきの入もあく。うう。あらは
き。とくとく。あらはる。とく。ひきうたとく。すう。うう。室
家。はう。一ゆよ。とく。とく。とく。とく。とく。とく。一橋よとく
花よあり。ひきのあらはる。とく。とく。のとく。よ
一切あり。うう。びき。ひらう。川。深廣。式よ。まく
と教。まく。人とがまく。う。一切あよ。一橋よとく。とく。とく
一橋。とく。う。とく。とく。とく。人とく。まく。おれと花をそくも
ちく。おれと花をそく。月に歩く。人を面白く。う。お
まく。おまく。う。一橋よ。歴せざくと。城のまくとく。

まくとく

はうひかひあくあくじうれいわくへりふたぐあと
うそとうそん、うねよがくへき

とばほほるほとせしめり乃うせうりせもの。雅ふ坐をう
新浦。席はうまうらとひて、あれもありつとありの
まくみゆ。まくはく賊ハ犯ねびゆたものやうよどる
まくみゆ。又説かき人歌とふ。名はに六義の注よ。賊
とよも。文選多ある。賊乃伴ふうそくとよし。下
りよんきの物よたとたとむきて。事よそそすとよひ。
けえもむうは。賊の伴といづらす。後賊の歌。文選よ
周公丹祠。花賊ゑ來井。まく。どづら賊字くもくよ
じ。一首よんあまこ。向うの。神ひもと結び。水のこゑ。

ゆとの移。神ひもとむとび。水ハ。まく。たまくよ
おれと。は。をれんく。まく五々とニ季とトメ。う
ばす。乃キモヒナリ。とく。是よおひひく。身のハ。お
孤の。うち。あらき。あらき。逍遙の。ひ。く。い。と。ひ。安常
うち。うち。あらき。乃ひ。い。と。ひ。と。ハ。す。常。うち

文記録云。相如野草菴食蓬佳年署忽忘無常
懷。惱。比之の。うち。周蘿。根王。根。陰。小。る。根。如。と。つ
者。安常。ふ。し。て。岳岸。と。よ。聲。ふ。う。ぞ。れ。く。菴。と。食
一。く。九。の。う。ち。た。故。惠。と。云。五十。卷。の。書。と。ほ。く。う
脚。門。よ。ま。あ。活。筋。ア。と。る。ま。く。から。壁。う。そ。、安常。と。觀。せ
ぐ。今。ハ。玉。き。そ。悦。と。い。く。と。う。は。父。よ。つ。ま。そ。安。常。と

あはれのやうに思ふよ
うむじゆうたうへ

よ。第三比ハ五事一物よち
被たりあわせ一物よち
てげきわまくひきよき。

嘉
蒙古傳

卷之三

前くちりとひよじせまつりす。うちかすへ。銅
蠶とも又説たゞく。彼ハ物語ニジキも剛強うりと
きくわざく歎也。もよきこころれと今のことをい
フ。翁れもあとゑくわざ也。

よきふれとみそやあくらん葛城のたゞくらめのれをも
ばす。寛平の娘宮の内内事は仕事とばのうもあひ
きくであつて。ごくのまようじくもあり。おきくも
風のまようじくのじとむだにうへ。此のすきり

ト向ふハたとくも

翁意をもじとす。ありそ海乃宿のまゆへとまづえ
とまづくわざくも

ふ。まゆ興あとく被毛もあらむ。一切の物はうるむすき

おりまきとふじてり。浦乃まゆのねれがわき

くわき。翁意をもじとす。をふたとだる也
がます雪ふもぐ。日とちよたとく。皆もくわざく。今
まゆは被毛もげがゑと。もぐ代へといふ。ありぞれ
今まゆへ。被毛もげがゑと。もぐを食毛のむす。

翁意をもあれぞらきと用ひよ

われを。まゆのまゆもげと。もよつまそひと。ひくに
ふかくはす。かへうかく。あくらんす。さわどく。の
うくとねす。やうきもす。まゆとく。うく。うく。
もよく。あくらんす。まゆとく。うく。うく。まゆのむす。

と。あくらんす。と。翁意をもあれよ。まようじく。まよ

ちよれ歎あれも風のまゝ。宝鏡よたゞう風の
まゝといふは、とあるいふらをよくす。但風のまゝ
大義のみみ。與を無むべひづくす。ヰをモトモセ
或风。我よりおき。往々きよれあひのう。がよよ引
の勢あり。誠は國與のる事別によばり。但候よ
知せう缺。風停よ便。もうふか別とぞ。やまう
か。又候。されど二乃物と二風也。づきと候也
とく。とくとくとくとくとくとくとくとくとくと
きくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとく。なし與あり。だまくとくとくとくとく
をく。かくのぞく。乃は傳じ。じりあひ。おねえ。
ひづく。やめらきぬ事。そり。國ち西。れありうち。わ
携。方。陰。風。御。侍。勢。手。と。と。侍。う。り。雅。ハ。中。風。の。侍。や
頌。ハ。毛。風。風。を。や。あ。く。神。歌。よ。お。う。さ。う。う。風。雅。頌。の。上
よ。ま。く。く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
賊。の。侍。う。り。物。よ。織。と。と。と。と。と。と。と。と。
ぶ。ば。の。侍。う。り。う。れ。を。と。と。と。と。と。と。と。と。
乃。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
風。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

以真為本。三月二日三月乃興の件也。ニまれた
とくへつも。毛詩よ船橋とすきひ船橋とせあよ。
とまもて。かうかじゆどありて。我更はあもも
ぞやうり。船橋はくわう御みく人のゆうと。ふん
ゆと。我更すあもせがと。おうす。おがうあふを西
きよたま。物のよもんく。越生よあらびのほま
がむうり。此詩の面よハ生婦のうとうて。船橋乃物故
きあよたとく。あらニまのあくさき
あくさき。あくさ

偽りアラモト世をうま。しきうち人のうま。アラ
アラモト

十六。第ニ雅。もくあく歌とく

かねるもむのわうそ。一三三三三三三
かねるもむのわうそ。かねるもむのわうそ

かねるもむのわうそ。風かねる

いは。偽りのうたせのう。よもんう。とめう。とくやよ
る。じと。船橋。櫻。歌。まくし。おめう。歌。とく
まくしのう。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく
おれとく。一室。け往。おれとく。おれとく。おれとく
おれとく。一室。櫻。歌。まくし。おめう。歌。とく
おれとく。おれとく。おれとく。おれとく。おれとく
おれとく。歌。の伴よ。似う。おれとく。歌。とく。お
おれとく。歌。おれとく。歌。の。月。歌。とく。おれとく

さう。すまほくの歎。賦の御ごとく。されど。雅の被ひ
ふかへり。賊の比^ヒ景^{ヨシ}をうぐれ侍なり。わがじゆのづぶ
らゆ也。雅の物なり。たゞ^{タゞ}とおもふばらゆくとある
被ひ。古賢の説よ。晴天、月、夜、雨、風、宿、待と。雅
乃こううきうとうべく。又後報の被ひ。たゞ^{たゞ}とおもふ
おもふ。すまほくの御ごとく。被ひおもふく。被ひおも
らむ。うかうか、ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
あが。被ひとおもたるやうまいとす。宣家に。雅へまし
て被ひとす。おりよみの被ひ。おもふく。だ
つちちふく。おもふく。おもふく。おもふく。雅よ言^{ハシマ}
を雅乃ニ^{ハシマ}。と。雅のす

俗うそをうそ物うそとすよ。おもふく。被ひたのまん
を雅とす。おもたるやうはうとす。おもふく。おもふく
被ひ。おもたるやうはうとす。おもふく。おもふく。
おもふく。おもたるやうはうとす。おもふく。おもふく
おもふく。或人うそを。雅よ。おもふく。とす
うそを。雅のうそ。乃歎とゆひ。

喜びとす。おもたるやうみづくせ山を窓てけさへあらん
はあ。こううなはく。とく。何ハかう。おひゆりす。ま
うち。おもたるやのやのまと。ねむり。おぼんのまひう
ひき。おもたるやのびきをう。

む門^{ムジ}ひとひと

はくもむくとみくみくはまれとまことにとみづくらさり

とくじたぐ

とハナガセ六頃シタケリモヒ教ナリ

正徳これをせとやめて神よづくを以教レモヒトヘテムセキ
なんある。善の聲メシマシシテ御神ミコトトノシテモフムテ
神うつるゝも。うわらやモアツクアヘム

とハば往スルシテ教ハせばからで神よづく。ものあり
テスルソシテ教ハせばからで神よづく。かくよべ
クノンシテは後アフニト。これを一向よ教ミトノアラチル。
八重御村ヤマハタケノハシヒキハアマドアトカドリヨモジモシテ
クノミシテモテモテモミハゲートアリ。往スルモ善有
聖小のあ。頌ハセをやめく。神よづくちりとらは。もは
序上。奉感德景容ヨウカ以成生葉ヨウハ而告神明トアリ。頌
を。税スル御紙ヨドセたまとし教トモシ教トモシタル。

神紙よづするをも。御座スル御紙ヨドセあまそて功トモシムと
頌シタケト云。頌シタケわししかあくろち。ちよりソシケ
んさり。は殿スルの教トモシム。儀ミツバチの傳トシケ。ば殿スル乃キシタケ
じづきトモシム。りとハアマドアトカドリ。富ヨウきトモシム。た富ヨウきトモシム
トモ。宜深二年之トモシム。とし。 えどくことと
福トモシム。幸トモシム。あくび。せ幸トモシム。橋スルミ
リ。三を宝トモシム。三株トモシム。三株トモシム。と書タクシム。乃の林トモシム
たつり。あくべトモシム。ちり。或リ洗ル。向カタとモアシトモシム。と。ば
るすれ繋タガタタガタ。三株トモシム。三株トモシム。二月の經トモシム。花ハナく。善トモシム
ある。おもてトモシム。と。かよ。おなれトモシム。あ。つトモシム。う。と。ば。ふ
寫シタケ。さうり。教トモシム。と。うち。を。り。空家スル。と。も。う。づ。れ
も。善トモシム。神トモシム。と。じ。と。も。頌シタケ。ト。づ。く。が。ま。と

日記紀よ。ニ頃とてひるはうす

あふるにまことに人へりと悉りよそひ。あまくそき
まふ。行ふるは我あり。又後。あふのまことひ。はるの
被を。ひはるは難がれど。はるはとひすら。まよびよび
あらた。毛ぬよさぐふ。告神ぬわあは頃とひび下
とりひらはらあらあらじきとたじ出でらるるやん

とひり

おやえむしのふかへかへかへえすんあつゆ

すん

トハむくいハ六種立あふさくばうてキハ。ヨリムクヒナセ
リカモアタリ。是ハ風雅頌と併シ。賛^{ハサウ}と稱す。ち
からて。六の品を。序よわづとすんをばして。六品

くかくわら

今世やつらの人のころをよろひふくらへりあと
をふうにはうむ。あくもくもくもくもくもくもくもくも
もくの人にまきぬへて。あくもくもくもくもくもくも
花をもくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
もくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

トハ。とのをかとひ。延長乃はとまをくくら人のころ
花よそりゆ、ふくらて。秋の色おとろへたら。ひまよひ
げをひり。難波はあくひ乃ひ。ひまよひのや
くく。あく。人のころを感す。ひまよひの
よほの人にまきぬ事。ひまよひのや
むきねおながく。人あく。難波はあく。ひまよひのや

のたぐりとす。ばかくと云ふ。すまうをうそあうすき
花をもとむかひておひらあくともあすすたらみくわ
とハ寔はあれとあはば。よつ下にひる乃きとし國
くにすと。をきこまき乃ちふせなやつはあらとたゞで
りす。もれすへ人をきぬ。なまくはわよきくべきと
りまん料せばあよ花肴と肴とちたら多勢うら。
まは序よハ至る。おもえい家にはる花多く使を食
く。寄以はる活計。媒とくまつげあく。したぞの
款酒ともうまく。あはれしきをも
しゆく。おどり。わねうり。まくらく。寝めてまく
衣裳。よ御。くじもく。うわいき。ばく。あらまく。く
とも。さうかがむ。かかむ。むかひよ。あく。

すまうをうそあうすき。花をもとむかひておひら
もあくろう。一。まは序。其寔皆
花をも花孤榮とあそぶ。れ。ひだりで。寔もと
ひだり。まきう。でもうけ。もく。むく。寔もと
あくろ。めは蓮華經とくらまくも。菴ハ花も
寔もお後せ。どりふくまく。はあく。は花中一の八脚
乃影号。とす。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
あく。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
やまく。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

ゆゑあれどもまことに御前はうもく、そくや夜うつしん
しづく。自縛よしにへらねうを、おほき民アに入道アにて云
下乃歎感うきとひらべよこうとれ。是承極橋改良萬
大にやどの人の傾城きづく夜うえんあじと海う
さとづら。 そもうどりをやりてぞうふくさん
あくねとひうれは、ドモ詠思アモ意涵アシのりと
ほくちうキ。世がよろ活水の媒アシのあくま
う見キテハ。教とくとくらうとくとくとくとく

